

No.
12

杉谷ひろば

杉谷さんとともにまちを創る会会報

2012年 2月 6日
発行
向日市寺戸町辰巳4-1
101号室 杉谷ひろば
TEL:090-8384-5984

原発に頼らない安全な社会を！

2月20日に関西電力のすべての原発が止まり、4月下旬には全国のすべての原発が止まります。またこの夏も原発なしで乗り切れる見通しを政府も示しました。

節電努力で、何億円も経費削減効果が出た企業もあるようで、湯水のように電気を使うために危険な原発に頼るといふ時代を終わりにしなければなりません。原発事故の危険と放射能の後始末といった大変な負担を将来の世代に残さないよう、「原発無し」を前提に、私たちの社会を見直すスタートにしましょう。

しかし一方、停止中の原発を再び運転しようという動きがあります。福島原発事故の原因調査もできていないのに、そんなことをしては、今度は若狭湾で事故が起こってしまいます。こんな無謀なことは絶対に認めないよう、政府にも京都府、向日市にも強く要請していきたいと思えます。



1/14 杉谷伸夫の議会報告会 開催

市民から寄せられた声

- 巡回バスが実現しないことなど、市長の明確な回答を引き出せない責任の1つは、議員の対応にもある。追及がなまぬるい。市長が具体性のないあいまいな答弁をしても、はいそうですかで済ませるなら、議会は役割を果たしていない。
- 新しくできる民間保育園は、どうして和歌山の社会福祉法人（檸檬会）になったのか。さくらキッズ保育園（西向日駅前にある民間保育園）も応募していたと聞いた。地元の社会福祉法人の方がいいのに。
- 「無余地駐車禁止（車の右側の道路に3.5メートル以上の余地がない場所に駐車してはいけない）」が多く、危険な箇所が多い。向日市は道が狭く、ほとんどの所が該当する。事故が起こらない対策は、警察だけでなく市の仕事。広報車を巡回をするなど対策をしてほしい。

- 道路、特に府道の整備を。歩道が無く、有っても狭くて歩きにくい。市の幹部、議員さんは、車でなく市内を実地にくまなく歩いて見てください。
- 市役所は変わらないとあきらめていたが、今のシステムを変えないといけない。こういう（本紙のような）発行物をすべての議員が出していけば、まちは変わると思う。
- 長岡京市で実施されている行政仕分けを、向日市でも実施できないか？
- 市がやるべきことを、簡単に委託会社にまかせている。これでは、職員の研究意欲や技術を育てることができないのではないか。
- 誰でも参加できる議員の報告会は画期的な企画だと思います。今後も続けてほしい。
- 議会に傍聴に行っても、傍聴席からは議員の姿は全く見えず、誰が賛成したか反対したかわからない。議員が見えるように変えてほしい。

連絡先

TEL 090-8384-5984(携帯)
FAX 075-932-1325
メール peace@fa2.so-net.ne.jp
HP <http://sugi.pupu.jp/>



市民のための市議会に

亀岡市の議会改革を視察

向日市議会議員・杉谷 伸夫

10年以上前から進む議会改革

1月19日に近畿市民派議員の研修会があり、亀岡市議会の議会改革を勉強してきました。

市町村の議会は市民にとって大変影の薄い存在です。そこで今、市民のための議会へ変わらなければならないと、各地で議会改革が進められています。亀岡市では、10年ほど前から議会改革の取り組みが始まり、全国的にも注目されています。たとえば、向日市議会との大きな違いをいくつかあげると、

- ① 毎議会が終わった後（年4回）、市内数カ所で議会報告会が開催され、市民との意見交換の場がもたれています。
- ② 議会や委員会はすべて公開（向日市では委員会は許可制）。本会議の様子はインターネットで生中継されるとともに、録画をいつでも見られます。
- ③ 各議員の議案への賛否の他、質問通告書の詳細、議員の視察報告、政務調査費の報告、議長交際費などの情報はすべてホームページで市民に公開
- ④ 女性議会、子ども議会、土曜議会など、市民参加をめざした様々な試み

その他、様々な議会改革が進められていることを知りました。

「市民の権利を保障する」 議会基本条例の制定めざす

私は10年少し前、京都府下の議会の現状調査をしました。その時は、請願や陳情、委員会の傍聴など市民の権利に関して向日市議会は京都府下では最も進んでいました。しかし、この10年間に各地の議会が、市民のための議会へ変わろうと努力している中で、大きく立ち後れているように思います。

議会改革とは、市民の権利を保障するものでなければなりません。市民は、議会のことをすべてが知ることができ、意見を言える環境をつくる必要があります。そのための第一歩は何と言っても「情報公開」。議会審議の様相や議会資料のインターネット公開、議会報告会など議会と市民の意見交換の場などは絶対に必要です。

今、向日市議会では議会活性化特別委員会で、市民と議会の関係を定める「議会基本条例」の調査・研究に着手しました。私は「市民の権利を保障する」議会基本条例をめざし努力します。



亀岡市議会の本会議場も見学
手前の質問席から質疑をする

放射能から子どもたちを守る

食材の安全チェックの為 市民放射能測定所設立へ

海や湖にも広がる放射能汚染

1月15日放送のNHKスペシャル「知られざる放射能汚染～海からの緊急報告」を見ました。

東京湾でも福島原発近傍の海と同程度の汚染が見つかるなど、予想もしない場所で発見されたホットスポット。山奥の湖で、人知れず進行していたワカサギやイワナなど淡水魚の汚染など。

事故後の国の説明は、「海に放出された放射性物質は海流で拡散、希釈されるので大丈夫」でしたが、海に放出された放射性セシウムは、泥に付着して海の底に沈み、底魚などに生体濃縮され続けており、いっこうに収まる気配はありません。チェルノブイリ事故の経験でも、収束には数十年単位の長期間を要するようです。また海のホットスポットは、沿岸流によって少しずつ南へ、茨城県から千葉県へと移動しているようです。

「市民放射能測定所」設立へ、 会員・賛同カンパを募ります

私たちの食べる食材は、全国から集まってきました。多かれ少なかれ放射能汚染された食材と、これからずっとつきあっていかなければなりません。本来は国や自治体が、食材の測定を積極的に行い、データを公開していくべきですが、国は一部しかチェックせず、また「暫定規制値以下は安全」としてデータを公表しません。自治体は「金がかかる」として及び腰です。

そこで、市民の手で食材の測定をおこなおう

と、「市民放射能測定所」を設立する運動が、京都でスタートしました。私もスタッフになっています。伏見区の丹波橋近くに事務所を間借りして放射能測定器を設置し、食材の放射能測定をおこないます。福島県内には、市民測定所が設立・運営されており、首都圏でもいくつか設立されているようです。関西では京都が最初です。趣旨に賛同する個人に会員になって頂き、会費と賛同カンパで、初期費用300万円を集める予定です。みなさんのご支援・ご協力を呼びかけます。測定器は発注済みですが、入荷が5月頃になるため、開設は5月末～6月頃になる見込みです。

STOP！原発再稼働

若狭の地元2市4町へ
要請してきました！

杉谷 伸夫

1月30日に若狭2市4町（おおい町、小浜市、高浜町、敦賀市、美浜町、若狭町）の自治体首長と議会に対し、大飯原発の再稼働を認めないよう要請に行ってきました。

今全国の原発54基中、動いているのは3基のみ。今月20日には関電高浜原発3号機が定期点検で停止し、関電の原発は全部止まります。その中で、関電は全国の先頭を切って、停止中の関電大飯原発3号機、4号機を再稼働しようとしています。

そこで、「国会で福島事故調査委員会が調査の最中で、事故原因さえ踏まえぬ再稼働はとんでもない。ひとたび事故が起きれば琵琶湖が汚染され京阪神一帯が高濃度の放射能に汚染される。原発の再稼働に同意しないでほしい。」と要請してきました。

「現状での再稼働の同意は困難」

おおい町の原発行政担当の課長は「今のストレステストは、コンピュータによる机上の計算であり、合格点が決まっているものではないので、再稼働の条件と考えていない。国が福島事



要請する筆者（手前）
1月30日・美浜町役場

故の知見に基づいた新たな基準を示さない限り再稼働の同意は困難」と明言しました。

他にも小浜市、敦賀市、高浜町でもニュアンスの差こそあれ、「ストレステストは再稼働の条件にならない。これは立地自治体首長の共通認識である。安全の根拠がない」、「敦賀2号機が今、ストレステストを受けているが、今の段階では私たちには判断評価の方法・基準さえわかっていない」として、一様に現状での再稼働の同意は困難との立場を明らかにしました。

また若狭町は原発立地自治体ではありませんが、準立地自治体協議会を小浜市などと作り、立地自治体並みの安全協定締結を求めています。

私たちにも発言権を！

ひとたび大きな原発事故が起これば、京阪神一帯に深刻な被害が及びます。原発の運転再開の判断に関しては、私たち京阪神に住む住民にも発言権があるべきです。原発の地元自治体に対する要請とともに、向日市からも「福島事故の原因究明なしに原発の運転再開はおこなわない」ことを求める声をあげていくことが必要です。

市内巡回バスを! 公共交通検討委員会 を傍聴しました

吉武 一貞

向日市公共交通検討委員会を傍聴してきた報告をします。

第1回会議（9月）の内容は、向日市内在住者に行うアンケート内容の検討でした。担当する外注の業者は決めてあり、その作った調査用紙（案）の項目・内容が審議され、2千世帯4千人（1世帯にそれぞれ2名）に配布することになりました。皆様の中にもアンケートに協力された方もあると思います。

第2回（11月）は、寄せられた回答の集計表の提示と質疑（これは私は傍聴せず）。

先日開催された第3回（1月30日）は質疑の追加とバスを利用したい人と地区の分布、行きたい場所や施設の分析が示されていました。

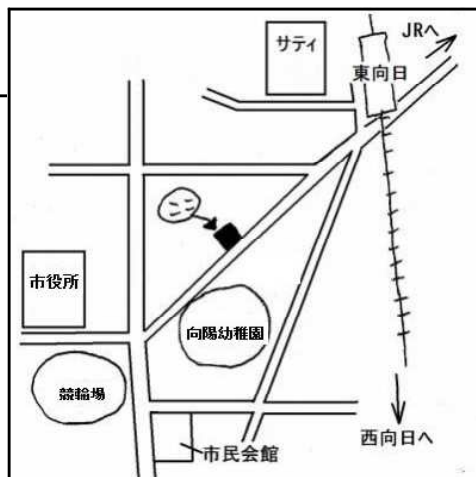
感想：この委員会として座長のもとに落ち度なく会議を重ねている。委員からの質問には市の担当者がその範囲の中で答えている、といった印象です。利用したい人の声は抽出アンケートの中に十分反映されているという立場らしく、更に住民の意向を取り入れて具体案を練るといような発言は、これまで一切出ていません。

最終の第4回は3月下旬の予定。国が行った近畿の交通実態調査結果が発表されるのを待つて開催し、結論（答申）をまとめるようです。困っている人の多くが利用しやすい向日市民の公共の足が実現するように願って傍聴に通っています。

2/11市民参加でまちをつくる会2月例会

※どなたでも参加できます。

- 日時：2月11日（土）午前10時～12時
- 場所：杉谷ひろば（連絡：090-8384-5984）
- テーマ：向日市財政とこれからのまちづくりへの希望
- 参加費：資料コピー代実費（100円程度）



連載 ポイント解説

向日市の歴史

鈴木 健弘

第5回 向日町（その3）

昭和47年に市制施行の時、町が市に改称されただけで、周辺の町や村の幾つかを合併するのが通例の日本の市では、単独の町からの市制成立はまず例がないことと考えられる。さらに人口密度がトップクラスであるということも、この町のユニークさであろうか。しかも、国鉄が明治9年(1876年)に開通し、東海道本線に名を連ねるようになって135年、今もなお「向日町」の駅名はそのまま、古都といい、町名といい改

めて極めてユニークな町と言う他はない。

延暦3年(784年)桓武天皇を筆頭に、中納言藤原種継、中納言佐大弁佐伯今毛人(ちゅうなごん さだいべん さえきの いまえみし)達には想像もできない歴史の足跡を踏んだ町となった。奈良の平城京から長岡京への遷都のあと、延暦13年(794年～泣くよ!)と平安京へ脱出までの、夢と、挫折と、慚愧の10年間は、この町の深く深い歴史を紐解くこととなる。

この町を選ぶために、3年余の上記を始めとするスタッフの調査の苦労は後述するとして、それ以前に存在したもの、例えば大小数十を数える5～6世紀の古墳群の洛西の丘陵、大原野の古刹や春日大社の分祠の大原野神社、向日明神などの存在。後にこの地が単なる地域ではなく、それなりの魅力ある鎮魂の土地であつた証しだろうか、平安びとたる紀貫之、在原業平、西行法師(出家した佐藤義清)、その他多くの人達のえにしの古都の町でもある。